

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(2ユニット共通/A,B)

事業所番号	2775802131		
法人名	有限会社 家族の家		
事業所名	グループホーム花の里		
所在地	大阪府大阪市平野区长吉出戸4-1-5		
自己評価作成日	令和4年1月17日	評価結果市町村受理日	令和4年3月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階
訪問調査日	令和4年2月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・その人がその人らしく過ごして頂けるように個別ケアに努めている。 ・おひとりおひとりが、笑顔で楽しく過ごして頂けるように関わりをもつように努めている。 ・明るく、穏やかなホームであり続けている。 ・独自のメニューで調理をし、盛り付けを行っている。 ・スタッフの年齢層が幅広く様々な刺激がある。 ・退屈しない日々を過ごしていただくようにレクリエーションを工夫している。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当事業所は2006年3月に地域福祉に貢献する拠点となることを目指し2ユニットで開設された。管理者は本年1月に就任し、職員の話しやすい環境を整えながら、利用者一人ひとりに合わせた個別ケアを心掛けている。長引くコロナ禍の中、地域交流、外出等は難しい状況であるが、レクリエーション、日々の食事など楽しみごとを考え、利用者が笑顔で楽しく過ごせる様にしている。家族アンケートでは「行事を行った際、写真付きで報告してくれる。アットホームな雰囲気では誰がどこで何をしているか把握できていて、体調変化について都度連絡があり安心である。」など満足度は高い。事業所立ち上げ時からサポートしている代表者代理と管理者、職員が一丸となって、共に喜怒哀楽を分かち合い、焦らず、挫けず、あきらめない介護に取り組み奮闘している。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフには、理念に基づいてケアをおこない繋がっていることを伝え、実施している。	事業所理念を「喜怒哀楽を分かち合い、焦らず挫けずあきらめない介護をめざします！！地域住民との連携・交流を図り、信頼されるホームを目指します！！」とし、玄関、ユニット事務所に掲示している。パンフレットにも掲載し、日常ケアを振り返りながら実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナのため、おこなえていない。コロナが終息した際には、地域との交流をもてるように、地域行事等に積極的に参加したいと思っている。	コロナ禍前は地域行事への参加、ボランティアの受け入れ、事業所主催の夏祭りに地域住民を招待するなど活発に地域交流を行っていたが、現在はすべて中止となっている。近隣住民からの認知症ケアについての相談、困りごと等を管理者、計画作成担当が行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナのため、おこなえていない。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナのため、封書での報告のみとなっている。	会議は偶数月の土曜日とし、地域包括支援センター職員、近隣の同業管理者、利用者・家族、以前の入居者家族、代表者代理、管理者の参加により開催していたが、現在は書面開催となっており、運営状況、事故・対策、行事報告等を記録してメンバーと家族全員に送付している。	運営状況報告書送付時に返信用紙を同封して意見収集を行っているが、家族からは感謝の言葉のみとなっている。テーマの絞り込みや電話による聞き取りなど意見収集の工夫と地域住民代表などメンバーの拡充を期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ホーム内で生じた課題を区役所のケースワーカーや包括支援センターに報告相談し問題解決に繋げている。	大阪市介護保険課には、コロナ対応についてメールや電話により相談している。コロナ関連の支援物資の補填や職員のPCR検査等でも連絡を取り合っている。生活支援課には生活保護受給者の提出書類等で計画作成担当が訪問しており、協力関係は良好である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会や研修、チェックシートを定期的に行い、実施。 スタッフには、研修やチェックシートを通して、普段のケア等見つけなおし、また理解してもらえようとおこなっている。 委員会では、チェックシートを元に会議をおこない、些細なことでも身体拘束や虐待に繋がるようなことがないか話し合いをおこなっている	身体拘束適正化の指針を作成し、チェックシートに基づき、代表者代理、管理者、計画作成担当(2名)により委員会を3カ月毎に開催し、議事録は全員に回覧している。研修は年2・3回行い、職員は受講報告書を提出し理解を深めている。玄関とユニット入り口は施錠している。家族の了承のもと、センサーマットを使用している利用者がある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	何気ない一言が虐待に繋がったり、生じることもあるため研修を実施し、理解を深めてもらっている。 身体特記事項表を使用し、身体異常の変化にいち早く気づき再発・防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度を利用されている人もいる。 新人職員には、OJTの時に説明を実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な時間を設け、納得されるまで対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナのため、開催できていないが、報告書と一緒に返信用の用紙入れて、ご意見やご要望をいただけるようにしている。	運営推進会議の報告書送付時の返信用紙や電話連絡時に家族から意見・要望を聞いている。面会の要望については、ズーム面会を始め、電話予約により行っているが、利用者にビデオ通話の認識がなく、希望者は2家族ほどである。家族が利用者の私物等を持参時、利用者に窓から顔を出してもらった面会はとても喜ばれた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	早急な対応が必要な場合は、緊急会議を開催。管理者は、現場内外にて、スタッフと良好な関係を保ち、意見等を聞くことができる。	月1回のフロア会議や申し送り時に職員が意見を述べる機会はあるが、管理者は就任早々に個人面談を行ったり、休憩時に話を聞くなどは、話しやすい環境を整えている。対応できることは速やかに対応し、利用者のADL低下による夜間の排泄方法やベッドの位置など話し合いながら運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	上層部で経営状況をふまえたうえで貢献度、心身の状況報告、勤務姿勢等を話し合い給与水準に繋げている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者代理が現場に入り、管理者や各スタッフの能力等を認識している。 また、管理者も現場に入り、個別にアドバイスや指導している。 コロナのため、外部研修に参加できていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナのため、平野区のグループホーム連絡会開催のない。 メールなどを通して情報交換やアドバイス等いただいている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接をおこない、ご本人の生活歴等の情報収集をする。 また、不安や困りごとをくみ取り、できる限り対応できるように努める。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に面談をおこない、ご家族のその時の困りごとや不安を理解・把握し対応できるようにアプローチに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントをおこない、他機関との情報を元に、双方の話しを聞き、ご本人にとって1番いいサービスが提供できるように努めて居る。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフが同じ目線にたち喜怒哀楽を分かち合いながら過ごしている。 できることは、一緒におこなってもらい、達成感を分かち合っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナで面会が制限されている中でZOOM等利用し、オンライン面会を実施したり、管理者やケアマネより個別に電話やメールにて報告をおこなっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナのため、おこなえていない。 ZOOM等利用し、ご家族とのオンライン面会を実施している。	利用者の生き立ち、生活歴全般の把握は、入居時の面談やフェイスシートにより行っている。馴染みの人の訪問は家族を除き無くなっている。入居後の馴染みの関係づくりとして、家事を一緒にしたり、居室を訪ねたり、隣同士に席を配置するなどの支援を行なっている。職員のサポートにより年賀状を書く利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	普段過ごして頂いている中で居室を訪れて、お話しされたり、フロアで一緒にゴミ箱作られたり、洗濯物を干したりたんだりされる姿をよく目にし、微笑ましく思います。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	介護サービス等についての相談、助言を必要に応じて、出来るように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジ					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	これまでの生活習慣を把握し、その人らしく生活を送ってもらえるように職員間で情報共有し、本人視点に立ち考え話し合いをおこなっている。	利用者の意向・希望は居室内や入浴時など、マンツーマンでの対応時に聞くようにしている。家族には電話や来訪時に聞いている。把握した内容は申し送りやミーティング、ケース記録により情報共有している。たこ焼きが好きな利用者には、いつでも食べられるよう冷凍のたこ焼きを家族が持参している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族または、ご本人との関わりが深かった方々から情報収集をおこない、これまでの生活歴等の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の言動や行動、日々の様子をケース記録に記入し、スタッフ間で把握、共有を実施・検討しケアに活かせるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族、関係のある方々からの情報を元に話し合い、作成している。	利用者・家族の意向を基に医師、看護師の意見を取り入れ、ケース記録、アセスメント、申し送りノートにより2・3カ月ごとにモニタリングを行って介護計画を作成している。長期目標1年、短期目標6カ月とし、計画作成担当、管理者、担当スタッフでサービス担当者会議を開き、状態変化に応じて見直し、家族に説明している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	会議では、ケアプランの確認を行い、生活記録・介護記録、申し送りノートなどの活用を図り、こまめに記録やミーティングで情報共有に努めケアの見直しを行い、介護計画を作成している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所での食事以外に個々に嗜好品を用意し、食べたいときに提供している。外部の医療機関への受診の付き添いや送迎等柔軟の対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナのためできていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居と同時に協力医療機関をかかりつけ医として、月2回の往診・健康管理の支援あり。必要時専門医への受診をご家族様の協力のもとおこなっている。	事業所の提携医は24時間いつでも対応してくれるため、入居前まで違う医師の診察を受けていた利用者も入居と同時に提携医に変更している。他科を受診する場合は家族で同行するが、家族が対応できない時は職員で対応することもある。月2回内科、月1回精神科の訪問診療がある。診察の結果や薬に変更があった時は家族に報告している。薬に変更があった時には注意深く観察し医師に報告している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は、入所者様の体調等の些細な変化にも気づき、居力医療機関の看護師に報告・相談し指示を仰いでいる。 また、経過報告等も引き続きおこなっており、こまめに報・連・相をおこない情報の共有に努める。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時は、ご家族等と入院先の関係者とこまめに連絡を図り、情報の共有や相談を実施している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人、ご家族の意向を聞き、主治医と話し合いをおこない、ご家族には事業所で出来ることを説明し理解して頂いたうえで、終末期ケアをおこなっている。残された時間を家族と有意義に過ごせるように支援している。職員には、ミーティング等で話し合いをし、周知し支援に取り組んでいる。	入居時に看取りの指針の説明を行い、重度化した場合には医師や家族、事業所職員で今後の対応について話し合い、改めて家族の意思の確認を行っている。看取りに関するマニュアルを作り、研修も実施している。開設以来5名の利用者の看取りを行った。終末期を迎えられた利用者が穏やかな気持ちで家族と一緒に過ごせるよう、コロナ禍でも感染予防対策をして支援できるように取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所から職員に応急手当普及員の資格を取得してもらい、訓練や研修を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	出火があれば装置も作動し、消防署へ通報できる。災害時のための避難訓練をおこなっている。地域の方の避難も受け入れ体制が整っている。	7月と1月に夜間想定を含め年2回の避難訓練を実施している。今までは消防署立会いで訓練をしていたが、コロナ禍で1月の訓練は自主訓練となった。備蓄品は水や食料品など3～4日分を保管し賞味期限切れの確認や懐中電灯の電池が切れていないかの確認を行っている。火災、地震、水害のマニュアルは整備されている。	事業所の隣に法人代表の住居があり、職員も近いので火災が発生した時には駆けつけることはできるが、マンパワーは多い方が良い。職員とは災害時の連絡網を作成し、緊急時に連絡が伝わるか訓練をしたり、近隣住民とは協力関係が得られるような関係性の構築に期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重しながら配慮ある声掛け・対応に努めています。 また、研修を実施し、職員の認識を深めている。	接遇や個人情報に関するマニュアルの整備や研修を実施している。入浴は同性介助を行い、居室に入るときには必ず声をかけ、利用者と話するときにはしっかり目線を合わせて話すことを心掛けている。忙しい時や介助が重なった時などにスピーチロックになるが、そのような時には職員がお互いに声をかけて協力し未然に防いでいる。大切な書類の保管は鍵付きの書庫で、記録の記載時も利用者の目に触れないよう注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コロナのため買い物に行き、自身の好みの物等を選んでもらうことは出来ていないが、着替えの服等出来ることに関しては、自己決定が出来るように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者本位、その人がその人らしくを念頭に、その人のペースに合わせた支援が出来るように努めている。入浴等なるべくご希望に沿った日に行えるよう対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一緒に洋服や身につけるものを選んだりして、その人らしさを大事にしています。 2～3か月に1度訪問美容の方に来ていただき、		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来ることをお手伝いしてもらいながら、一緒に物を一緒に食べ、食事の時間を楽しんでいます。	メニューは事業所の調理師が考え買い物は職員で行っている。数名の利用者は現存能力を活かし食器を洗ったり拭いたり職員と一緒にしている。最近は回転すしやレストランに行くことができないので、季節にあったイベント用の弁当を買ったり、利用者の食べたいメニューを聞いて作っている。食事形態は利用者個々に合わせ、食べやすいようにして提供している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	偏りのないメニュー作りに心掛け、個々に合わせた量や食事形態で提供し、水分は提供方法や水分内容を変え提供している。また、個人の好きな飲み物やジュース等工夫して提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に個々の状態に合わせた口腔ケア実施している。また、月に1～2回訪問歯科を利用し、口腔内の清潔保持や衛生状態の確認に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	以前より、布パンツを利用している方は、減ったが、トイレでの排泄を基本としている。ひとりひとりにあった支援方法を常に検討、実施をおこない、共有している。	1名を除き日中は全員トイレで排泄している。夜間はポータブルトイレや尿器を利用する人、定時にトイレ誘導をする人、パット交換をする人など利用者や家族と相談し個々に対応している。排泄の失敗でパットが汚染されたときは職員がパットを渡すと利用者は自分で交換できる。自分で着衣の上げ下ろしができるようになったり、今までできなかった動作ができるようになるなど自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を意識したメニュー作りを心かけている。個々に水分補給の回数を増やしたり、寒天の提供をおこなっている。また、排泄しやすいように体操等おこなったりしている。ミーティング等でも、話し合いをおこない共有している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には、週2回の入浴が基本であるも、突発的な入浴が必要が生じた場合は、回数関係なく入浴していただいている。曜日や時間問わず、基本的に希望に応じての対応をしている。ゆず湯や菖蒲湯おこない、季節を感じていただいている。	月曜日から土曜日の午後にお風呂を沸かし、利用者は週2回の入浴を行っている。イベントがあり入浴できなかった時や必要が生じた時には日曜日や午前入浴も実施している。1日2～3人の利用者が入浴するがお湯はその都度入れ替えている。話をしたり歌を歌い入浴が楽しくなるよう支援している。入浴中は利用者の気持ちがリラックスし、何が食べたい、どんなことがしたいなど沢山聞くことができる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的には、その人がその人らしく過ごして頂けるように、自由に過ごして頂いているが、ご自身にて判断が難しい方は、疲れている時や夜間睡眠がとれていない時や体調の状態等に合わせて、休息できるように努めている。 コロナのため外出等出来ない為、感染対策し庭に出て少しでもリフレッシュして頂くように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医・看護への報告・連絡・相談は、その都度おこなっている。薬の変更や増減時や服薬方法変更等の際には、些細なことでも細かく介護記録へ残すよう実施する。 個々の状態に合わせて服薬方法の検討、変更にて対応している。 研修を実施し、薬についての理解を深めるよう努める。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意なことを発揮できる環境作りを努めている。洗濯物干しや畳み、食器洗い、拭き等を日課とされている。 事業所をご自身の職場と思っている方もおり、率先してお手伝いして下さる。 コロナの為、外出が出来ない為、庭を散歩したり、外気浴等で気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナのため外出等は出来ないが、事業所の庭を散歩されたり、時折花の水やりをおこなったり、外気浴等で気分転換を図っている。	以前は近くのコンビニで買い物をしたり、お弁当を持って花見に出かけたりしていた。最近では週に1回程度散歩に出かけたり、温かい日は玄関の外に出てベンチで話をしたり、花の水やりをして外気に触れ気分転換を図っている。1月は少し新型コロナの感染が落ち着いたので近くの神社に初詣に行くことができた。今後は利用者が自分の目で見て好きな服が買えるような買い物の支援がしたいと考えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	今現在、コロナのため買い物は行っていないが、行った際にはご自身にてお財布を持っている方は、買い物に行った際にレジにて支払いしていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	今現在、手紙を出せる方はいないが、出来る方がいれば都度対応する。自宅等に電話したいとご要望があれば、電話したり、取り次いだりと対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	コロナのため、ガーデンパーティーはおこなえていないが、フロアーや廊下には、ソファやイスがあり、ゆっくり過ごして頂けるようにしている。 また、庭や玄関先には季節のお花を飾っている。	フロアは大きな掃き出しの窓があり日当たりが良い。季節感の感じられる飾り付けや、今日が何月何日かが分かるよう手作りのカレンダーが設置されている。ゆったり座ってすごせるようソファ、廊下にはベンチが置いてあり、利用者は思い思いに寛いでいる。定期的に換気を行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには、入所者同士が一緒に座り、寛いだり、お話しできるスペースがある。 また、居室でも寛ぐことが出来る空間を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時の際に、ご本人馴染みのもの等をもってきていただき、居室に置いてもらえるように案内している。 仏壇やご家族の写真や家具等持ってきてくれる方がいる。	開設当初、ベッドは自分で持ってきていたが、最近は事業所で電動ベッドを準備している。タンスやテーブル、椅子、仏壇等自分の馴染みの物を持って来たり、写真や自分で作った作品を壁に飾っている。自分で部屋の掃除をする人はいるが、多くの利用者は職員で行っている。居室の換気や乾燥しないような対策を行い居心地よく過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室の入口にオリジナルの表札を掲げている。居室は、個々の身体機能に合わせてポータブルトイレやポール等設置し工夫に努めている。 また、身体機能の状態に合わせてベットやポールの位置や居室環境の変更も実施している。		